

## 一般シンポジウムS05

### 分子ディスプレイとコンビバイオによる創薬への挑戦

### Facing Challenges for Drug Discovery Using Molecular Display Technology and Combinatorial Bioengineering

芝崎 誠司<sup>1</sup>, 植田 充美<sup>2</sup>

<sup>1</sup>兵庫医療大薬, <sup>2</sup>京大院農

1990年代以降、ファージ、バクテリア、酵母などを宿主とする分子ディスプレイ法を用いた研究により、分子生物学や細胞生物学分野において新たなる知見が得られて来た。さらにポストゲノム時代を迎え、これらの分子ディスプレイ法に加え、ハイスループット探索法を駆使した「コンビナトリアルバイオエンジニアリング」という新しい分子や細胞の創製技術について、薬学を始め、基礎医学、臨床両分野においても期待が集まっている。遺伝子、タンパク質分子に関する大量の情報が容易に入手できる現在、それらのデータベースを最大限に活用し、生理活性を有する人工分子の創出のための様々な方法が確立されつつある。本シンポジウムでは、大学、研究機関や企業研究者として上記分野の最前線でエキサイティングな課題に挑戦している講演者とともに、新しい分子、細胞創製技術による創薬を目指した取り組みと、その展望について議論したい。